

■武田泰淳 小説家。中国での戦場・敗戦体験から戦後文学の代表的作家になり、評論やエッセーにもすぐれた著作。

たけだたいじゅん

明治天皇没・1912＝ 東京本郷の浄土宗潮泉寺住職の次男に生まれ、父の師の武田姓を継ぐ。

原敬首相暗殺1921＝ 9歳：

浦和高校在学中に、_中国文学に親しみ、また左翼運動にも加わる。

海軍軍縮条約1930＝18歳：

満州事変・・1931＝19歳：

東大支那文学科入学後間もなく、逮捕拘留され、左翼運動に挫折。
東大も中退し、僧侶の資格を得るが、僧家に生まれ、僧であることに屈折した恥ずかしさを自覚する。

帝人疑獄事件1934＝22歳：竹内好らと中国文学研究会を結成するが、

日中戦争始・1937＝25歳：

応召し、輜重兵として中支戦線に赴き、
その中国体験、戦場体験は決定的なものとなって、

第二次大戦始1939＝27歳：_除隊。

日米開戦・・1941＝29歳：

創価学会検挙1943＝31歳：累積した苦悩と自己認識、世界認識を根底とした*「司馬遷」を刊行、最初の注目すべき作品となった。

年金+総武装 1944＝32歳：

敗戦・・・1945＝33歳：

上海に渡り、中日文化協会に就職、
同地で敗戦を迎えた。この敗戦体験も作家としての素地を培う大きな要素となり、

新憲法公布・1946＝34歳：

帰国。

新憲法施行・1947＝35歳：

喫茶店で富豪の娘鈴木百合子と出会って恋愛。_「審判」「娘のすゑ」等を執筆。

極東裁判決・1948＝36歳：

独立回復・・1951＝39歳：長女花誕生と同時に、百合子と正式に結婚。

メーデー事件・1952＝40歳：

「風媒花」、

自衛隊発足・1954＝42歳：

*極限状況にある人間の善悪の価値基準如何を描く秀作「ひかりごけ」に大成される。
以後、旺盛な創作活動を展開、戦後文学の代表的作家の一人となる。その重量感と柔軟性に満ちた幅広い
思想は、評論やエッセーにもすぐれた著作を生み、

なべ底不況・1957＝45歳：

インスタント・1958＝46歳：

_人気を呼んだ「森と湖のまつり」から、

安保闘争・・1960＝48歳：自伝的巨編「快楽」の連載開始、

いくたびかの休載や中断するも続けられ、

いざなぎ景気1966＝54歳：

霞ヶ関ビル・1968＝56歳：「秋風秋雨人を愁殺す」の芸術選奨文部大臣賞や日本芸術院会員の選出などの国家的榮譽は辞退、

「富士」執筆中に、酒量が増え、

ドルショック・・1971＝59歳：

*「富士」刊行後、脳血栓症で入院、片麻痺が残ったため以後の作品は妻百合子の口述筆記により、

日中国交回復1972＝60歳：

未完ながら、「快楽」が刊行されると、

石油ショック1973＝61歳：

_日本文学大賞、

クランプール事件1975＝63歳：

田中角栄逮捕1976＝64歳：

*「目まいのする散歩」で野間文芸賞を受けるまで、一貫して戦後文学の担い手を務め、肝硬変で没した。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、